

# 史跡馬越長火塚古墳群保存活用計画書

2018 年 3 月

豊橋市教育委員会



## 史跡馬越長火塚古墳群と出土品

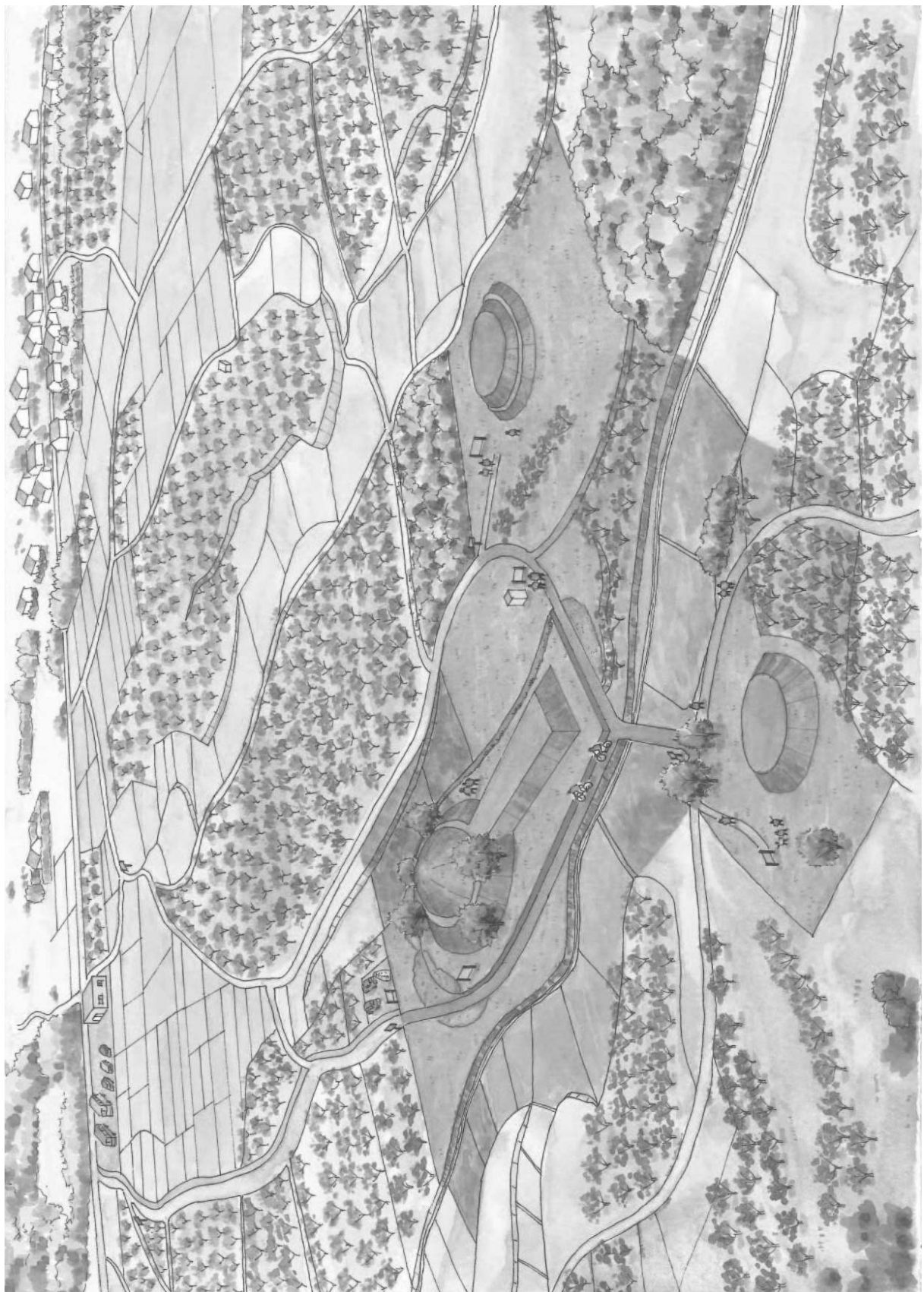


史跡馬越長火塚古墳群 全景



重要文化財 愛知県馬越長火塚古墳出土品（左：金銅装馬具、右：玉類）

整備イメージ図



## はじめに

豊橋市は、愛知県東三河地方の中核都市であり、海・山・川に囲まれた豊かな自然とともに、嵩山蛇穴、瓜郷遺跡、吉田城址、普門寺、二川宿本陣、豊橋ハリストス正教会など多くの文化財や史跡を有する歴史豊かな地でもあります。

また、市内には 1400 か所を超える埋蔵文化財包蔵地があり、中でも古墳は 741 基を数え、市町村としては県内最多数となります。これは古くからこの地域に人々が定住し、さまざまな活動を行ってきたこと、古墳時代にはこの地が隆盛し、文化が著しく発展したことを示しています。

そのような中であって、本市では市内石巻本町にある馬越長火塚古墳群の重要性を明らかにするため、平成 16 年から発掘調査を進めてまいりました。さらに平成 23 年には、昭和 43 年に馬越長火塚古墳の横穴式石室から出土した副葬品が本市に寄贈され、こうした古墳や副葬品の調査結果を平成 24 年 3 月に報告書として刊行しました。この報告書に基づき出土品は平成 24 年 9 月に国の重要文化財に、古墳群は平成 28 年 3 月に国の史跡に指定され、古墳群本体・出土品の両方ともに東海地方を代表する優れた文化財として認められました。

文化財指定を受けて、本市では古墳群を保護し、その価値を広く啓発していくため、平成 28 年度に地元や学識経験者で構成される「馬越長火塚古墳群保存活用計画策定委員会」を設置し、2 か年をかけて史跡の保存活用計画を策定いたしました。今後はこの計画にもとづき、史跡の適切な保存管理を行いつつ、整備活用を進めていきたいと考えております。

最後に、この計画の策定にあたり、ご協力を賜りました地元の皆様をはじめ、ご指導いただいた策定委員会、並びに文化庁、愛知県教育委員会の各位に厚くお礼申し上げます。

平成 30 年 3 月

豊橋市教育委員会教育長

山西 正泰

# 目 次

<b>第 1 章</b>	<b>計画策定の目的と経過</b>	<b>1</b>
第 1 節	計画策定に至る経緯	1
第 2 節	計画の目的	1
第 3 節	計画策定に向けた組織	2
第 4 節	上位関連計画等との関係	3
第 5 節	計画の策定の経過	5
<b>第 2 章</b>	<b>史跡馬越長火塚古墳群の概要</b>	<b>6</b>
第 1 節	指定に至る経緯	6
第 2 節	指定の状況	6
第 3 節	立地環境	15
<b>第 3 章</b>	<b>史跡馬越長火塚古墳群の本質的価値</b>	<b>26</b>
第 1 節	本質的価値の明示	26
第 2 節	構成要素の特定	35
<b>第 4 章</b>	<b>史跡馬越長火塚古墳群の現状と課題</b>	<b>36</b>
第 1 節	保存管理	36
第 2 節	活用	40
第 3 節	整備	41
第 4 節	運営・体制	43
<b>第 5 章</b>	<b>保存活用の大綱と基本方針</b>	<b>44</b>
第 1 節	大綱（ヴィジョン）	44
第 2 節	基本方針	44
<b>第 6 章</b>	<b>保存管理</b>	<b>46</b>
第 1 節	保存管理の方向性	46
第 2 節	環境に配慮した保存管理の方針	48
<b>第 7 章</b>	<b>活用</b>	<b>54</b>
第 1 節	方向性	54
第 2 節	方針	54
<b>第 8 章</b>	<b>整備</b>	<b>56</b>
第 1 節	方向性	56
第 2 節	方針	56
<b>第 9 章</b>	<b>運営・体制の整備</b>	<b>60</b>
第 1 節	方向性	60
第 2 節	方針	60
<b>第 10 章</b>	<b>施策の実施計画の策定・実施</b>	<b>62</b>
<b>第 11 章</b>	<b>経過観察</b>	<b>63</b>
第 1 節	方向性	63
第 2 節	方針	63
<b>資料編</b>		
資料 1	史跡の概要と課題一覧表	資 - 2
資料 2	史跡馬越長火塚古墳群と出土品	巻頭グラビア
資料 3	古墳現況図（再掲）	資 - 7
資料 4	地区区分図（再掲）	資 - 9
資料 5	樹木調査結果	資 - 10
資料 6	整備計画図（再掲）	資 - 11
資料 7	整備イメージ図	巻頭グラビア